

令和4年12月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

## 田牛地先の磯焼け調査

2017年8月に発生した黒潮大蛇行は現在も継続しており、この影響により伊豆半島沿岸ではカジメの磯焼けが発生しています。

当场ではカジメ群落の状況を把握するため、下田市田牛地先(一つ石、母根)において、定期的に潜水調査を行っています。昨年11月の調査では、1m<sup>2</sup>当たりのカジメ現存量が5,740g(一つ石)、370g(母根)であったのに対し、今年11月の調査では1,170g(一つ石)、0g(母根)であり、カジメ群落の減少が顕著に表れていました。特に母根ではカジメが全く確認されず、代わりにテングサが着生している様子がみられました。また、一つ石で観察されたカジメの多くは、藻食性魚類による食害の痕が確認されました。

このまま蛇行が継続すると、カジメ群落が更に減少してしまうことが懸念され、今後の状況を注視していく必要があります。



一つ石 (左)2021年11月、(右)2022年11月



母根 (左)2021年11月、(右)2022年11月

## 水産・海洋研究発表会の開催

11月30日、当研究所の研究成果を広く県民に知っていただくための発表会を開催しました。今年度は本所会議室(焼津市)での対面発表とWeb聴講を併用したハイブリッド方式で開催し、当日は会場に18名、Webで20名の参加者がありました。

伊豆分場からは長谷川主任が「キンメダイの精子を保存する」というタイトルで発表しました。これは、キンメダイの人工授精を効率的に行うため、精子を冷蔵で保存する条件や溶液の開発に成功した研究です。

この他、浜名湖特産のドウマンの養殖に関する最新の取組やアカモクの健康機能性成分に関する研究等が紹介されました。



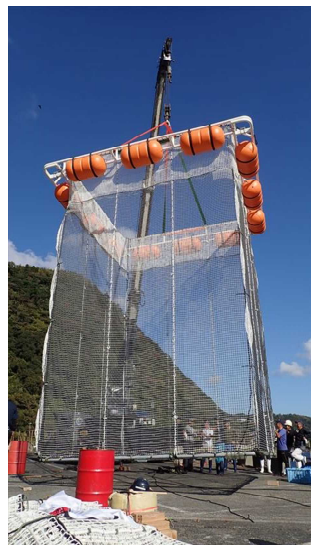
↑会場での発表の様子

## 富戸定置網が蓄養事業を開始

城ヶ崎海岸富戸定置網株式会社が定置網の横に蓄養網を設置し、漁獲された魚の蓄養試験を始めました。導入された蓄養網は縦5m×横5m×深さ7mで、網地は特殊なコーティングを施されており、潮の流れを受けても形が崩れにくい構造になっています。

11月17日にクエなどの魚が導入され、蓄養が開始されました。この蓄養網は現在出荷調整や給餌により身質を向上させて出荷することを目的に使用されていますが、今後はトラウトサーモン養殖の試験も行われる予定です。

導入された蓄養網 → 組立が完了し、クレーンで吊上げて海面に下ろす



**12月の予定** ●サバ類資源評価会議(1日) ●スルメイカ資源評価会議(2日)

●ブリ資源評価会議(7日) ●県漁業士会役員会(9日) ●キンメダイ資源管理検討部会(20日)

●太平洋いわし類、マアジ、さば類長期漁海況予報会議(20~21日)

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。